

メンテナンスやアップグレードなどで Nutanix クラスターの CVM やホストの停止、再起動する場合があります。CVM やホストの停止、再起動する前にクラスターが CVM ダウン、ホストダウンを許容できるか確認する必要があります。ここでは CVM やホストの停止、再起動する前に確認すべき内容と確認方法を説明いたします。

チェックリスト

- 各 CVM のサービスが全て UP であること
- Cassandra Ring に全ての CVM が参加して、Up 及び Normal 状態であること
- クラスターの Data Resiliency が OK であること
- ストレージ IO の Reroute が発生していないこと
- 過去 1 時間に CVM サービスの FATAL ファイルが更新されていないこと
- 直近の Critical アラートが発生していないこと

確認方法

- 1) 各 CVM のサービスが全て UP であること

```
nutanix@cvm$ cluster status
```

ノード数が多い場合以下コマンドで UP 以外のサービスを表示させることもできます。

```
nutanix@cvm$ cluster status | grep -v UP
```

出力例：

```
CVM: xx.xx.xx.1 Up
```

```
CVM: xx.xx.xx.3 Up
```

```
CVM: xx.xx.xx.5 Up, ZeusLeader
```

```
CVM: xx.xx.xx.7 Up
```

2) Cassandra Ring に全ての CVM が参加して、Up 及び Normal 状態であること

```
nutanix@cvm$ nodetool -h 0 ring
```

Address	Status	State	Load	Owns	Token
kv000000Msfgt0tSk22HNmeoLEMT9hDKoNj90Tfc1JpRHn0pRzgU6vJkCwYW					
X.X.X.44	Up	Normal	19.54 GB	25.00%	00000000NUjWKYp94sEGXJfIESzM6uY1nEVSEnkeZd0Dk4FMDYI1JFmYskpL
X.X.X.41	Up	Normal	15.11 GB	25.00%	FV000000jZyBpvdRUdTMjOVYIhBRLlq1hNDRXIGAqzO8bYBeceSieWOQ6NdK
X.X.X.42	Up	Normal	23.17 GB	25.00%	V0000001XCXAHdrXjVlkQHxCX2XJ8oAtUX21dPZfC46JQeltUpSL9WgZKmX
X.X.X.43	Up	Normal	21.34 GB	25.00%	kv000000Msfgt0tSk22HNmeoLEMT9hDKoNj90Tfc1JpRHn0pRzgU6vJkCwYW

```
nutanix@cvm$ svmips
```

```
X.X.X.41 X.X.X.42 X.X.X.43 X.X.X.44
```

以下コマンドで CVM の数と Cassandra Ring に入っている Up 状態の CVM 数が同じか確認もできます。

```
nutanix@cvm$ svmips | wc -w
```

```
nutanix@cvm$ nodetool -h 0 ring | grep Normal | grep -c Up
```

3) クラスターの Data Resiliency が OK であること

Prism の Data Resiliency が OK、もしくは以下コマンドの Current Fault Tolerant が全部 1 以上であれば問題ないと判断できます。

※ほとんどの Current Fault Tolerant が 2 なのに一部のみ 1 であるなど、二つの数値が混在する状態でそれが既知の事象ではない場合は弊社サポートへお問い合わせをお願いします。

```
nutanix@cvm$ ncli cluster get-domain-fault-tolerance-status type=node
```

3 ブロック以上存在する環境でノード単位ではなくブロック単位での冗長性(ブロックウェアネス)をご確認される場合はコマンドの **type=node** を **type=rackable_unit** にして実行してください。

```
nutanix@cvm$ ncli cluster get-domain-fault-tolerance-status type=rackable_unit
```

4) ストレージ IO の Reroute が発生していないこと

以下コマンドで何も出力されていない場合は Reroute が発生していないと判断できます。

※192.168.5.1 と 192.168.5.2 は CVM 内部で環境に依存せず使用される IP アドレスであるため、変更せずにそのまま実行してください。

- ESXi:

```
nutanix@cvm$ allssh 'ssh root@192.168.5.1 esxcfg-route -l' | grep --color 192.168.5.2
```

- AHV:

```
nutanix@cvm$ allssh 'ssh root@192.168.5.1 netstat -nr' | grep --color 192.168.5.2
```

- Hyper-V:

```
nutanix@cvm$ allssh 'winsh netstat -nr' | grep -w --color 192.168.5.2
```

5) 過去 1 時間に CVM サービスの FATAL ファイルが更新されていないこと

```
nutanix@cvm$ allssh "ls -ltr ~/data/logs/*FATAL*"
```

※出力されたリストのタイムスタンプ（日付）から、過去 1 時間に更新された FATAL の名前のついたファイルがある場合、「ncc health_checks system_checks cluster_services_status」を実行して、Pass になっている事を確認した上で、CVM やホストの停止、再起動を行なってください。

※アップグレードや停止/起動を行なった直後に、FATAL ファイルが更新されることは通常の動作であるため、特に対処いただく必要はございません。

6) 直近の Critical アラートが発生していないこと

確認方法 1

Prism Web コンソールにログイン頂き、アラートダッシュボードにて右上にあるフィルタを選択し、重要度「Critical」および 解決済み「いいえ」にチェックを入れ、直近で Critical アラートが発生していないことをご確認ください。

